

# 平成27年 9月定例会

**H26年度国保事業決算  
2億2千万円ほどの大幅赤字 (3P)**



今定例会は9月7日から同18日まで開催され、町長から平成26年度の決算認定13件、条例の制定1件、条例の一部改正5件、平成27年度補正予算5件、物品の売買契約の締結1件、町道の路線認定1件、一部事務組合関連5件、広域協定の変更1件、辺地計画の変更および策定が各1件、監査委員の選任1件の35議案が、また、陳情に基づく議員提出議案1件が提出され、全議案が可決された。

## 町長提出議案

平成26年度黒潮町一般会計決算  
**総額99億円 前年度比3.1%減**  
建設事業費 防災事業竣工で大幅減に

平成26年度黒潮町一般会計  
歳入歳出決算の認定

○歳入総額

104億4106万円

前年度比で1億5315万円、1.5%の減少。

○歳出総額

98億7796万円

前年度比で3億1847万円、3.1%の減少。

歳入から歳出を差し引いた形式収支は5億6309万円となり、この内、翌年度に繰り越す事業の財源は2億421万円となっている。

また、実質収支額は3億5888万円で、基金への繰入額は2億円、翌年度への繰越額は1億5888万円とした。

歳出では、台風や豪雨災害により災害復旧事業費は大幅に増加したものの、普通建設

事業費は避難タワーの完成など防災事業費が減額したことなどにより大幅な減となった。

また、国道56号大方改良に伴う庁舎移転準備金による基金造成や国保への法定外繰入金、臨時福祉給付金、公債費の繰上償還などが増の要因となっている。

歳入は、地域の元気臨時交付金の皆減や事業の終了等により、国庫支出金や地方債は大幅な減収となっているものの、庁舎移転補償費の増や繰上償還財源に基金の取り崩しなどにより、ほぼ同額の歳入額となった。

内容的には、昨年に引き続き、おおむね健全な財政運営となっているが、将来への負担となる町債の借り入れは、昨年に引き続き大きな額となっており、今後もより一層、慎重な財政運営を心掛けていかなければならない。

平成26年度末の積立基金残高は49億6642万円、地方債残高は116億384万円となっている。この内、地方債残高は、近年、大型事業に取り組んできたことにより上昇傾向にあるが、健全化判断比率の状況は、実質公債費比率が8.4%、将来負担比率も繰上償還によりマイナス3.4%と下がっている。



復旧中の法寿院橋 (有井川 H27年9月末撮)

認定(全員)